

久御山町中央公民館 公民連携の可能性について

久御山町
平成29年7月

1 久御山町の概要

久御山町は、京都市中心部から南へ約15km、山城盆地の南西部に位置し、北は京都市、東は宇治市、南は城陽市、南西は八幡市に隣接しています。

本町には、鉄道駅はないものの、国道1号がまちの中央部を南北に縦貫し、東部を国道24号が、さらに京滋バイパスや第二京阪道路、京都第二外環状道路等の広域幹線道路網が開通し、大阪や奈良、滋賀方面も含めた道路交通の要衝の位置にあります。

これまで、農業中心のまちとして発展してきましたが、昭和41年の国道1号の開通を契機に工場の進出が進み、第二京阪道路や京滋バイパスなどが開通したことによる道路交通網の発達により、町の中央部に工業地域が形成され、多くの製造業を中心に企業立地しており、「ものづくりの苗処（なえどころ）」である久御山町を支えています。そのため、町の人口は約16,200人ですが、工場や商店などの事業所は約1,600もあり、昼間人口は約27,800人と、昼夜間人口比率の約1.7倍は全国有数の高さを誇っています。



2 久御山町中央公民館の概要

久御山町の中央公民館は、町役場に隣接し、社会教育法に基づく本町唯一の公民館であり、生涯学習の拠点として、季節の料理教室や男の料理教室、ジュニアコーラス教室の年間講座をはじめ、花と緑の教室や染め物教室などの短期講座や大人のチャレンジ教室、音楽フェスティバルやファミリーシアターなどのさまざまな事業を展開しています。

施設としては、本町最大のホール（690名）や会議室や研修室などがあり、指定管理者制度により（公財）久御山町文化スポーツ事業団が各種事業の実施や施設貸与を行い、運営しています。しかし、その利用者数は年間約3万人ありますが、各施設の利用率（貸し館事業含む）は、概ね30%程度であり、特にホールについては20%程度と低い状況にあります。

また、昭和50年に開館し、築40年を超える公共施設となっており、平成25年に実施した耐震診断では、I s 値（構造耐震指標）が低いところでは0.22という値を示す結果となっています。

そのため、施設の老朽化対策や耐震化を目的とした施設改修などの対応策が早急に必要状況にあります。

■ 中央公民館 施設概要 ■

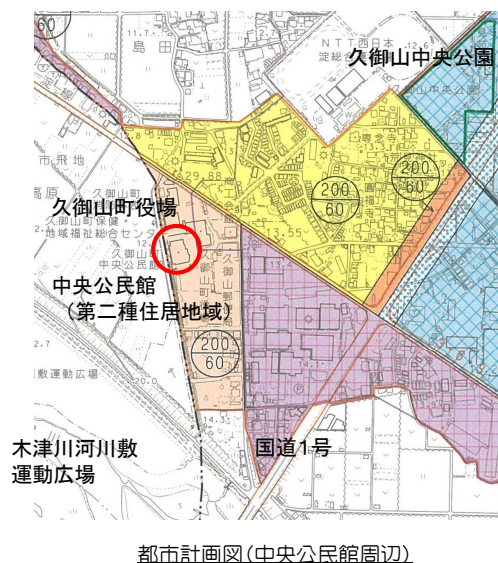
[主な施設] ホール（690名）、
会議室・研修室、料理実習室、
和室、音楽室、遺跡展示室

[建築面積] 1,603.35㎡

[延床面積] 3,036.35㎡

[構造] 鉄筋コンクリート造3階建

[開館] 昭和50年11月



3 中央公民館あり方検討の実施状況

本町財政については、町税収入は平成9年をピークに減少しており、一般会計では平成26年度まで実質単年度収支が7年連続で赤字となるなど、地方債の借入や財政調整基金等の繰入により財源不足を補っている厳しい状況にあります。

そこで、本町の生涯学習環境を維持するとともに、長期的な視点に立って公共施設の最適な配置を行うため、中央公民館の利用実態等を踏まえ、施設の耐震化工事や建替え、他施設との統廃合などを本年度検討することとしました。

現在、庁内内部において、まずはホールを利用する町主催事業について洗い出しを行っているところであり、今後、外部有識者による検討会議を行っていく予定です。

○ 中央公民館の利活用における公民連携の可能性

① 町主催のホール利用を含めた効率的な運営について

現在のホール収容人数は690名ですが、事業の洗い出しを行う中で、年間に町主催事業は10事業（実利用日は20日弱）程度、必要収容人数は400名ということが見えてきました。指定管理者制度はもとよりPPP/PFI制度等を活用する中で、ホールを含めた公民館施設の利活用について、どのような効率的・効果的運営が考えられますか。

② 立地的可能性による施設の機能について

本町は道路交通網の充実により多くの企業が立地しています。また、隣には京都市や宇治市があり、観光地へのアクセスもよく、現敷地内には駐車場（約200台）もあります。現在の社会教育施設である中央公民館を改修、建替えなどを行う場合、どのような施設・機能を付加することが有益（できれば交流人口の拡大や賑わいの創出を目的に）であると考えられますか。